令和7年度 社会科 授業改善推進プラン

大田区立矢口中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

②2年生

(1) 成果

- ・学習効果測定の結果より、基礎的・基本的な学習の定着を継続して行い、授業改善を行った結果として、改善の兆しが見て取れる。
- ・生徒の主体性を伸ばす指導を、レポート作成を通して行うことにより、生徒の興味・関心に改善が見られた。

(2) 課題

- ・1学年時と同様に、地理的分野・歴史的分野ともに基本的な知識や社会科的技能を活用して、記述する課題に対し補強することが求められる。

③3年生

(1) 成果

- ・基礎的な知識の定着がある程度は見られること。

(2) 課題

- ・活用的な問題に対する苦手意識や拒否反応、空白回答を減らしていくこと。言語活動をどのように筆記試験に成果として反映させるか。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第1学年	地理的分野(世界の中の日本の役割)について、目標値や平均値と比較して低い。また、歴史的分野・公民的分野といった他の分野と比較しても低い。歴史的分野については、一部の項目では平均値を大きく上回っているものの、安土桃山時代以降は正答率が低いことが懸念事項である。公民的分野については、平均値と大差ない結果であった。	/	/
第2学年	地理的分野・歴史的分野ともに社会科的知識の活用に課題が見られる。成果としては、基礎・基本的な学習内容に関し	地理的分野では世界各地の人々の生活と環境の項目の問題で達成率が目標値に至らない結果が出ている。歴史的分	/

	ては、補助教材の活用などにより改善が見られるようになった。来年度に向けても、継続して学習していくことの大切さを指導していきたい。	野では飛鳥時代から平安時代の項目の問題で目標値より低い結果が出ており、中世にかけて目標値に近い結果が出た。両分野とも学習した時期が遡るほど数値が低いという傾向が読み取れる。	
第3学年	地理的分野の基礎は区や全国の平均より上回っているが、活用の問題で課題が見られる。また、歴史的分野では時代が古いほど正答率が低くなり、特に「ヨーロッパ人との出会いと全国統一」の単元は目標値から7ポイント近く下回った。	地理的分野において、校内平均値が目標値よりも低い数値を示しており、課題がみられるものの、全国正答率には数値が近いいため、復習が必要だと考える。歴史的分野においては、目標値や全国正答率に近い値を示している。	地理的分野、歴史的分野において、校内平均値が目標値より高い数値を示している。しかし、日本地理や雨温図、記述問題といった分野においては全体と比べると数値が低い。

(2) 分析 (観点別)

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
平均値や全国平均と比較しても、全体で見たとときに著しく低いわけではない。しかし、一部の設問において著しく正答できていない箇所がみられる。特に地理的分野について課題がみられ、資料を読み取る技能に困難さを抱えている。また、歴史的分野について、近現代史の正答率が低い。公民的分野については、全体的に平均と近似しているが、国民の義務についての理解度が低く課題である。	当該観点の設問数7に対して、平均値よりも下回っている箇所が4箇所あった。中でも特に低い箇所は2箇所であった。 基礎問題・活用問題による差は認められない。	

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
地理・歴史・公民的分野ともに基本的事項の定着が依然として課題となっている。3年間を通して、各分野の特性	昨年度同様、地理・歴史・公民的分野に共通して、文集問題に対する正答率が課題となっている。読解力の不足を	昨年度と比較すると、主体的に取り組む力が伸びてきている手ごたえは感じられるようになった。広い意味で成

を踏まえつつ、学力の向上補っていくことが必要な学年である。また、学習することの楽しさも教えていく必要があると感じる。	依然として感じられるので、総合学習や読書指導の中でさらなる成長を目指していく必要を感じている。新聞記事も活用していきたい。	長じてきている生徒も増えてきているので、学年全体として取り組む調べ学習などをより効果的に取り入れていきたい。
--	---	--

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎的な知識を問う問題は地理的分野、歴史的分野ともに一定の定着が見られるが、歴史については既習が古い単元の忘却が際立っているため、復習の時間や現単元との過去の単元とのつながりを意識した授業設計が必要になると感じた。	知識・技能に比べ、数値としては低い値となった。特に記述問題が空白になっている生徒がいるなど、思考する前に問題文を読み取りきれない生徒もいたと考えられる。読む・書く・聞く・話すなどの言語活動のより一層の充実を図る必要があると感じた。	生徒は意欲を持って学習に取り組んでいる一方で、主体的な学習とは言えない状況にある。試験の点数や成績のための学習になっている生徒が多い。教科の本質に気づかせ、自ら問いを立てて学びに向かうような授業設計が必要であると感じた。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
地理的分野・歴史的分野の両方で、本調査の結果を踏まえ、数値が低い部分については、復習要素を強めにした授業展開が考えられる。また、知識定着のみならず、資料の読み取りを行う技能を育成していく必要があるため、資料読取に特化した時間をつくるなど、授業計画に取り組む。	基礎となる知識・技能があつてこそその当観点だと考えるため、まずは基礎知識が空間的・時間的にどうつながっているかの理解をさせる。その後、現代的な諸課題について既習事項を用いて解決できるようになる流れだと考える。そのため、まずは「自身の考えを整理し、表現できるようになる」を目標に支援を行いたい。	CT 機器等を用いた資料提示や動画使用により視覚的に生徒を刺激し、学ぶ意欲を高める。また、時事問題を取り上げ、解説することにより、教科書や資料集の情報のみならず、「今」に対する意欲や関心を高める指導を行う。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
昨年度からの継続的指導として、基本的事項の定着が第一の課題となる。振り返りテストを実施することで知識の定着を図り、かつ結果を出すことで学習意欲を高めていく。テスト後に得点上位者	地理や歴史の教科書を読ませることがまず考えられるが、社会科は総合教科なので、写真資料や映像資料を多用し、でき売れば本物の資料を提示することにより、さらに効果を上げていく。国立図	調べ学習を繰り返すことにより、自分なりに創意工夫して学習成果をまとめることができる生徒が増えてきている。これは自分で学習していく力を伸びてきている証左であると考えられるの

<p>の氏名を発表する、表彰状を強化として発行するなど、自己肯定感の向上を図っていく。</p>	<p>書館の文書資料などもできるだけ原点を提示し、意欲的な生徒の興味を引き出していきたい。</p>	<p>で、これからも継続して指導を続けていきたい。それが学習意欲の向上につながっていく。</p>
---	---	--

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>復習の時間や現単元との過去の単元とのつながりを意識した授業設計が必要になると感じた。具体的にはテーマごとの探究学習を設定するなどが考えられる。例えば、テーマを文化とし、年代を遡って探究を進めるような自由進度型の学習に取り組ませることも検討したい。</p>	<p>読む・書く・聞く・話すなどの言語活動のより一層の充実を図る必要があると感じた。具体的には単元の問題を生成し、その問いに対する解答を、他者との対話や、資料収集を通して記述するような課題を設定していく学習展開も検討したい。</p>	<p>教科の本質に気づかせ、自ら問いを立てて学びに向かうような授業設計が必要であると感じた。具体的には自ら問いを単元の探求テーマとして継続して学習していくような単元計画が必要である。そのためには、生徒が問いを立てられるよう資質・能力を育成することが始めである。</p>